

掛川市教育委員会定例会会議事録

教育委員会事務局

会議の名称	平成24年12月掛川市教育委員会定例会			
場 所	市役所南館 教育委員会室			
開催日時	平成24年12月19日(水)	午後1時から午後2時15分まで		
次回開催日	平成25年1月24日(木)			
出席者	委員長 委員長職務代理者 教育委員 教育委員 教育長 教育次長	小野恵美子 松下一徳 平松季哲 山本和子 浅井正人 水野雅文	教育政策課長 学務課長 学校教育課長 幼児教育課長 社会教育課長 図書館長 教育政策課室長 教育政策課指導主事 教育政策課調整庶務係長	鈴木利之 中根純一 佐藤嘉晃 松浦充 大川原淳哲 大石弘美 大倉照佳 小川閣典 川岸道子

【会議次第】

- 1 開会
- 2 11月教育委員会定例会会議録の承認について
- 3 教育長の報告
- 4 協議事項
 - (1) 学校評議員の委嘱について
 - (2) 掛川市保育の実施に関する条例施行規則の一部改正について
 - (3) 平成25年度教育委員会事務局当初予算編成について
- 5 報告事項
 - (1) 平成25年度掛川市教育委員会指定研究について
 - (2) 児童生徒の現状報告について
 - (3) 平成24年11月掛川市議会本会議一般質問について
- 6 その他
 - (1) 次回定例会の日程等について
- 7 閉会

【議決事項】

- 1 学校評議員の委嘱について

学校教育課長

学校教育法施行規則並びに掛川市立小学校及び中学校の管理に関する規則、掛川市公立学校評議員設置要綱により、掛川市公立学校評議員を委嘱することについて説明した。

<質疑・意見>

なし

審議の結果、本議案は原案どおり承認された。
- 2 掛川市保育の実施に関する条例施行規則の一部改正について

幼児教育課長

掛川市の住民情報システムの変更に伴い、掛川市保育の実施に関する条例施行規則の、保育所入所承諾書等の様式を変更することについて説明した。

<質疑・意見>

なし

審議の結果、本議案は原案どおり承認された。

3 平成25年度教育委員会事務局当初予算編成について

教育政策課長他各課長

平成25年度教育委員会主要施策及び平成25年度当初予算主要事業等の要求について説明した。

<質疑・意見>

委員： 学校教育課の学校サポーターの増額は割合的にはどのように増えるのですか。

事務局： サポーター自体の人数は増えません。雇用形態が変わるための賃金の増額です。時間も変わりありません。休暇などきちんとした形の雇用形態にするためのものです。

委員： サポーターとして来てくれている人の待遇が良くなるということですか。

事務局： そういうことです。

委員： 別の話で、学校訪問に行つてびっくりしたんですが、1年生に手がかかる児童がいて、飛び出したり奇声をあげたりしていた。サポーターは付いていないし、子どもたちは慣れてしまっていた。この現場で他の子どもたちに影響はないのか。

その児童の親御さんも特別支援でなく普通学級を希望されているそうです。本当に教育委員会としてこれで良いのか真剣に考えないといけないと思う。そういった子ども全員にサポーターを付けるべきだと思う。

担任の先生も大変だと思う。子どもたちがこの状況に麻痺してしまっていて、2年生3年生になったときに影響があると思う。他の学校でもあることだと思う。

予算要求をするのだから思い切って、本当に問題のあるところには無理かもしれないが毎日1日中いられるくらいの予算要求をしていかないといけない。その状況は頻繁に起こっていることだと思う。

他の子どもへの影響を考えたときに、その子がそのクラスで良いのか、特別支援にいく方法を考えるか、それが無理なら教育委員会としてサポーターを付けることを考えていかないと思う。いくらお金がかかっても要求をしていかないといけないと思う。学校でも対策はしていると思うが。

事務局： そういった子どもは全国いろんな所にたくさんいます。市内でも、医師の判定が出ていないものを含めると600人くらいいます。医師の判定が出ているものはもっと少ないです。

タイプもいろいろあるんですが、そういった子どもたちにすべてサポートしていくのは現実不可能で、先生方ががんばってもらっているのが全国的な実情かなと思っています。もちろん何とかしたいということで要望はいつもあげてきていて、本年も来年度に向けて要望は出しています。

委員： たくさんいるのは分かるし、全部につけるのは無理なのは分かるが、そのうちの一人でも付けることが出来れば違うと思う。レベルは分からないが順番に上からやって、全部にケアできれば一番良いが、予算の関係、今年よりも来年は少しでも多くとやってほしい。

規定はあると思うが1年生の35人は大変だと思う。市独自でやるくらいしていかないと担任の先生も、現実問題それで良いのかなと思う。今すぐ解決できる問題ではないのは分かるが、極端なものにはぜひやってもらいたい。

事務局： 1年生については就学時の状況で把握しながら、これは大変だなと優先順位を精

査してサポーターの配置を決めています。今後、国や県がそういった支援をしてくれるか分からないが、市としては、本年度最低限のサポーターを確保して進めています。

25年度からは県の派遣がなくなるのはとてもつらいことで、何度もお願いをしてそれでは困るといっているのですが。増やしたいけど現在のレベルを保つだけでも大変です。増やしたいと要望は出しているが厳しい状況です。

委員： 県は減らしてくるのですか。

事務局： 県は減らしてくるのでその分を市単独でと要望しているが、今年は介護員が大きな課題となっているので、そこに予算をかけないといけないので厳しい現実にある。

掛川市の予算総額はどんどん小さくなっているので、今を維持するのが精一杯の目標になっている。拡大できない状況にある。

委員： この介護員予算はこれから毎年あるわけですね卒業するまで。

事務局： 状態が良くなれば別ですが。

物より人を充てたいのですが。さらに財政当局にお願いしていく。

委員： そういう現実をどれだけ市長が把握してくれているか、現場を見れば何かしなければと思うのではないかと思う。

委員： 是非見てほしい。英語教育よりも前の段階だと思う。

委員： この前、国の調査でも 6.5%という数字が出ている。特別支援を要する子の各クラスでの割合、それを国がどのくらいくみ上げているかということですね。

事務局： 増えているのに、県も引込めるのはおかしいと思う。

委員： 親の説得が必要だと思う。

担任は、介護員に任せてしまうことは出来ない。特別支援学級に行けば担任が付くわけだから、そうすれば他の子どもも落ち着いて学習できる。そのへんは、なかなか親も認めたくないところで難しいでしょうけど説得をしていく。

委員： そういう場面があるならば、参観会などで他の父兄も見ているでしょうから、当事者としてのそういう意見を上げてもらい、考えてあげられるような施策をしていかないと、本当の市民のための行政といえない。人づくりを考えていかないと大変なことになる。

委員： すこやか保育園部の定員を増やすというところで、非常勤の先生が採用されるということだが常勤の先生の採用はないのでしょうか。クラス担任まで非常勤職員に任せなくてはいけない状態になっている。

将来の掛川を担ってもらう子どもを託すということで、常勤職員の労働負担を考えると非常勤職員にはそこまで求められないと思うので、是非訴えていただいて常勤職員の採用をお願いしたい。

事務局： 今年度も退職者がいるので現状維持を人事担当と協議したが、人件費削減の中で定員を減らしていることや、南部の幼保園の再編、民営化などが出ているので、常勤職員の保育士としての採用は難しい。すこやかについては採用試験のあとの話です。

委員： 自分たちが将来的に誰の世話になるのか考えないのかな。

委員： そもそも、公立で背負いきれないで民営化に投げた時点で、かなり切り捨てられたような気がする。

委員： 解決はしないと思う。言い続けるしかないですね。

審議の結果、本議案は原案どおり承認された。

【報告事項】

1 平成25年度掛川市教育委員会指定研究について

学校教育課長

現在指定されている2校は25年度も継続して、確かな学力、生き方科の研究指定校とし、25・26年度は新たに1校を、言語活動の充実を図るための研究指定校にすることについて報告した。

2 児童生徒の現状報告について

学校教育課長

当該案件について報告した。

3 平成24年11月掛川市議会本会議一般質問について

教育次長

11月市議会本会議で質問のあった6人の、質問要旨と答弁内容について報告した。